

鹿児島県

[編集・発行] 鹿児島県奄美パーク
鹿児島県奄美市笠利町節田 1834
TEL .0997-55-2333
FAX .0997-55-2612
<http://www.amamipark.com/>

vol.10
2008.2

奄美パークだより

◆奄美の郷企画事業

◆田中一村記念美術館企画事業

◆奄美パーク応援隊紹介

◆わきや島自慢

◆常設展示室



写真：泉重千代翁像

奄美の郷企画事業

あまみっそうエスタ

平成19年5月4日、多目的広場で「あまみっそうエスタ」を開催しました。

奄美市節田小学校の児童による「アマンデー太鼓」でオープニング。「菊仙」さんによる「江戸太神楽」がステージ前で披露された後、参加者は「ねんど遊び」「昔あしび」「レクレーション」の各コーナーに分かれ、各自好きな物を紙粘土で作ったり、竹笛や竹とんぼ、バルーンアートやかざぐるま作りを体験しました。最後にステージ前で、大島養護学校のアソビうたサークル「ぽすてる」による「あそびうた」で子どもや親も大いに楽しんでいました。



ネリヤカナヤフェスタ

平成19年6月24日～7月31日の期間中「ネリヤカナヤフェスタ」を開催しました。初日は、オープニングイベントとして、道の島太鼓、ロイヤルフラ仲山教室によるフラダンス、ネリヤカナヤ創作童話コンクール優秀受賞作「すみようたナガの夏物語」の紙芝居、伊津部小児童による「さざ波バンド」、島唄（かささん唄）等の演目が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

また、期間中に水中写真家興克樹氏を招き、サンゴ礁をオニヒトデから守る活動や白化現象の推移等、奄美のサンゴ礁に関する話を写真・映像・実際に使用する機材を使って自然の大切さを伝えました。

この他、期間中には、奄美の海岸で採れる貝殻の展示や図画展を行い、多くの来館者の目を楽しませました。



サマーコンサート

平成19年8月19日に古来から今ぬ世へパート6として奄美大島本島内の各市町村からベテラン及び若手の唄者・三味線奏者12名と、若さ溢れる県立奄美高等学校郷土芸能部「太陽の子」が出演し、島唄・太鼓等を披露しました。高校生からこの年米寿を迎える森チエさんまで、年齢幅が広く、味わい深いイベントとなりました。



文化講演会

「琉球古典音楽・奄美島唄への誘い」と題して2部構成で開催しました。第1部では、高名な奄美島唄者の坪山豊さん、シマユムタ伝える会会長の山田薫さん、そして沖縄から三味線のプロフェッショナルである西江喜春さんを招いて講演（トーク）を行いました。奄美と沖縄の文化・方言の違いや、音階の相違点が紹介され、会場からは笑いや納得した様子が伺えました。第2部では、坪山豊さんによる奄美の島唄、そして沖縄からは琉球舞踊と三味線・琴・笛・太鼓等の地謡（じかた）による響演が行われました。島唄はもちろん、琉球古典音楽による見事な演奏と唄、そして創作舞踊も披露され、昔ながらの舞踊ではない新しい踊りに観客の目は釘付けになっていました。最後は奄美の六調と沖縄のカチャーシーで締めくくり、学びと体感のひとつときを満喫しました。



しまなびバスツアー

平成19年5月20日に、「でい・まーじんま第二弾」と題して、昨年に引き続き「島んちゅ会」40名が出演し、島唄をはじめ、舞踊・三味線合奏・胡弓演奏等を披露しました。

今回もバラエティーに富んだ演目構成で観客を魅了し、フィナーレの六調では出演者と観客が一体となり、大きな盛り上がりとなりました。



しまなびバスツアー

平成19年7月15日に、龍郷町島唄保存会(23名)による島唄と円子ども会の八月踊りなどバラエティーに富んだ演目構成で開催しました。

特に、『行きゆんになや加那』をステージと会場とで唄の掛け合いを行い、会場全体が一体となり、大いに盛り上がりしました。



しまなびバスツアー

平成19年10月21日に、喜界島・徳之島・奄美大島在住の小学生からベテラン唄者が揃った「奄美芸能保存会」による島唄並びに琉球舞踊が披露されました。フィナーレのイトウ・渡しや・六調では客席の方々も舞台上に上がり、楽しく踊りながら締めくくりました。



ふくしま音楽大会

平成19年5月5日に、今回初めて奄美パーク主催による子供のシマ唄大会を開催しました。

小学校低学年の部に10名、小学校高学年の部に15名、中学生の部に12名が参加し、それぞれ優勝目指して自慢のシマ唄を披露してくれました。

表彰式では、部門ごとの優勝・準優勝・第3位受賞者に、宮崎園長から賞状と記念品が授与され、最後に審査員やゲストと一緒に記念写真を撮影しました。



奄美民謡の語り 〜ネリヤカナヤ〜

平成19年7月1日に、奄美民俗談話会会員の児玉永伯氏を講師に迎え、ネリヤカナヤをテーマとした民謡に関する講習会を開催しました。口承文芸と民謡、昔話の定義や分類についての説明や、奄美に伝わる民謡を紹介しました。

また、実際に児玉さんが祖母から採話した「夢の話」を島口で紹介し、「昔話は教訓や歴史を解き明かす要素が含まれている。」と指摘。最後は会場からの質問や、活発な意見交換で様々な角度から民謡を学ぶことができました。



くしあまづくり

平成19年8月12日に、奄美パークの辻明光次長を講師に、サキシマスオウの実を材料にして、フクロウの鳴き声のする笛を作りました。サキシマスオウの説明に子供たちは聞き入り、植物の生態に感嘆していました。

また、子供たちは実から中身を一生懸命掻き出し、試行錯誤して彩色していました。

色とりどりのフクロウやウルトラマンが出来上がり、最後は参加者の作品を並べて記念撮影をしました。



田中一村記念美術館企画事業

蘇畑智「パステル画展」

平成19年3月25日から4月8日にかけて、奄美市在住の蘇畑智さんの「光景画展2007・3」が開催されました。

オーストラリア・メルボルン日本芸術祭での「二十一世紀日本芸術のきらめき賞」受賞を記念して開く初の個展。奄美の自然を素材にした光をパステル画の繊細なタッチで描いており、大和村のマテリアの滝や徳浜など奄美大島の風景を画材として描いた光の絵を中心に26点を展示しました。「光のタッチや光景など今まで経験のない新しい作品に出会った。」など観覧された多くの方々の感動を呼んでいました。



「島を描く」積山秀和絵画展

平成19年4月22日から5月6日にかけて、奄美市在住の積山秀和さんの「島を描く」絵画展が開催されました。

島の風物を温もりあるタッチで描いた作品は、子供の頃に触れた島の情景に思いを馳せて描いており、「若い子にも島の原風景を感じてもらえたら」と、今回は、「奄美市美展」市長賞や当館で毎年開催される「奄美を描く美術展」の受賞作品をはじめ、油彩や水彩など約40点を展示しました。来園者の中には、「街中のポスターを拝見して実際にみたい。」と足を運んで来られた方や「どの絵にも島の温もりが感じられ素晴らしい。」と感動される方など、とても好評でした。



西山伊智子押し花展

「押し花で描くアートの世界」

平成19年5月20日から6月3日まで、徳之島町出身の西山伊智子さんによる「押し花で描くアートの世界」押し花展が開催されました。ハイビスカスなど奄美の草木を使って絵画に仕上げた作品で、自然の素晴らしさを表現していました。

西山さんは南日本女流美術展入賞のほか、公民館講座や幼稚園、小・中学校、また、月1回の割合で奄美市や徳之島町でも指導されています。当館での展覧会は今回が初めてで、67点の押し花を展示しました。来館者の中には、初めて押し花を見る人が多く、細かく仕上げられた作品に感激した様子でした。また、同時に行われた押し花体験も好評でした。



太島高校美術・書道部展

平成19年6月24日から7月8日まで、太島高校の美術部・書道部による企画展が開催されました。美術部は油彩、アクリル画、木製彫刻、石膏像、デザインや同校の県民大学の受講生の彫刻作品など27点、書道部は書写のほか、自作の詩を勢い良く表現した作品など23点を展示しました。3回目となる今回は、美術部展の単独展ではなく、初めて書道部と合同で開催しました。来館者の方々は、高校生でこんなにすばらしい作品が描ける事がうらやましいと感激した様子でした。



常田 守写真展

「アマミ亜熱帯のいぶき」

平成19年7月22日から8月12日まで、自然写真家・常田守さんによる「アマミ亜熱帯のいぶき」写真展が開催されました。常田さんは、東京から帰郷した1980年から自然観察や撮影を本格化し、技工職の傍ら奄美の希少動物や絶景を鮮やかな写真に収めてきました。写真展では、奄美の山奥で撮影された生き物や植物など約100点が展示されたほか、常田さんのギャラリートークでは、撮影時の苦労話や撮影機材の紹介などがあり、夏休み最初の日曜日ということで親子連れも多数来館されました。「写真を通じて奄美の自然のストーリーがみえて感動しました。」と話されるお客様もいました。



没後30周年記念 「初公開・一村が描いた天井画の花々展」

平成19年8月17日から9月17日にかけて、田中一村没後30年記念として「一村が描いた天井画の花々展」を開催しました。牧野信久氏によって当館に寄託、寄贈された計40点を展示しました。作品は、一村が千葉在住時代に東京の支援者の依頼で描いたもので、支援者の自宅仏間の天井を飾っていたものです。「天井だと遠くから眺めることになる絵を間近で観ることができ、花の生き生きした様子がうかがえました。」と感動される方もいました。



別府 亮写真展

「Color of A.M.A.M.I」

平成19年9月23日から10月11日にかけて奄美市名瀬の写真家・別府亮さんによる「Color of A.M.A.M.I」写真展が開催されました。別府さんは、2000年に奄美を紹介するホームページ「奄美大島探検マップ」を立ち上げ、奄美の風景写真に目覚め、2004年から写真家として活動を始めました。島内のみならず関東、関西でも個展を開き、当館では初めての写真展となりました。今回は、4年間撮影してきた作品の中から厳選した100点を展示、自己最大の写真展となりました。来場者は、奄美の自然や風景の写真を、感嘆の声を漏らしながら興味深そうに眺めていました。また、ギャラリートークでは、カメラを実際に手にしながら写真を始めたきっかけなどについて話され、また、質問コーナーも設け、会場は立ち見がでるほどの大盛況となりました。



親子スケッチ大会

夏休み企画として7月29日と8月26日に親子スケッチ大会を行いました。7月は名瀬中学校の小正由布子先生を、そして8月は奄美高校の本坊麻衣子先生を招き指導してもらいました。まず、レクチャールームで絵を描くときの注意事項やポイントなどを説明し、その後それぞれ親子で奄美パーク内の好きな場所でスケッチしてもらいました。作品完成後はイベント広場へ移動して児童の作品を並べ、1点ずつ作品の素晴らしいところを説明してもらいました。



一村シンポジウム

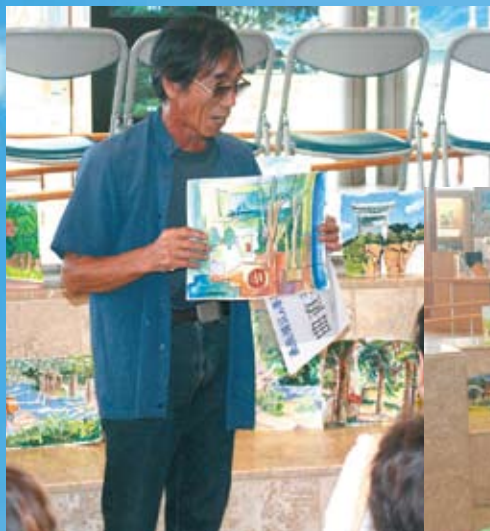
平成19年9月16日に、没後30年記念イベントとして「これからの田中一村を考える」をテーマに一村シンポジウムを奄美パークイベント広場で開催しました。まず、当館の前村学芸専門員が基調報告を行い、一村と親交のあった宮崎鐵太郎さんや一村亡き後の動きを紹介しました。また、今後の展開について「どうアピールしていくべきか」とシンポジウム開催の趣旨説明を行いました。パネルディスカッションでは、当館宮崎館長がコーディネーターを務め、大矢鞆音氏、西村康博氏、山西健夫氏、山本和弘氏、当館前村学芸専門員がそれぞれの立場から提言しました。観光資源として成功を収めている一方、美術専門家による研究の停滞などが課題に挙げられ、「データベース化して公開することが大事である。」などの意見が出ました。会場からの質問等もあり、予定時間を大幅に超える内容のあるシンポジウムとなりました。



左から、宮崎館長、大矢鞆音氏、西村康博氏、山西健夫氏、山本和弘氏

創作体験教室（風景画）

平成19年10月8日に、創元会会員で鹿児島県美術協会会員の宍野勝文氏を講師に招き、創作体験教室（風景画）を開催しました。午前9時30分からレクチャールームにおいて、事前指導として実際に作品を描きながら、絵を描くときの注意事項やポイントなどを説明した後、それぞれ園内のお気に入りの場所ですketsuしてもらいました。作品完成後は、イベント広場に移動して講評会を行い、各々の作品へのアドバイスをいただきました。



親子美術館探検

平成19年7月22日、今年で2回目となる親子美術館探検は、田中一村作品鑑賞だけでなく、美術館施設の機能や美術館の果たす役割などを知ってもらうことにより美術への理解や創作への関心を広げるために企画しました。今回、参加者は少数ではありませんでしたが、普段見ることの出来ない電気室・機械室などを案内し、どのような仕組みで美術館が成り立っているのかなどを参加者に知ってもらいました。



奄美パーク応援隊

奄美パーク応援隊は平成15年4月にボランティアガイドして発足し、年々活動の幅を広げてきました。今回はその活動の様子を紹介します。

展示案内ガイド

奄美の郷や田中一村記念美術館の展示物等について解説、案内をします。



しまうた倶楽部

活動を始めて1年が経ち島唄を3曲も弾けるようになりました。発表会で披露する予定です。



園芸サポーター

毎月一回、園内の植物に名札を設置したり、花壇の整備、除草や剪定等の作業を行っています。整備した花壇には、花が沢山咲きました。



手熟ガイド

奄美の三味線、島唄、機織りなどを実演します。奄美の郷内の民家で演奏したり、団体の来園者から要望があれば、イベント広場でも行います。



一村サポーター

田中一村記念美術館の企画展示作業のサポートをします。



その他

応援隊員向けの勉強会や七夕の飾り付け、池清掃なども行っています。



節田のカミチツアー



一村館の池清掃



七夕の飾り付け

奄美パークはこのような地域の人々の活動に支えられています。

興味のある方は、奄美パーク応援隊事務局まで、お問い合わせ下さい。

奄美パーク応援隊事務局 tel 0997-55-2333 fax 0997-55-2612

わぎや島自慢

眠れる中世の焼き物カムイヤキ（伊仙町）

徳之島空港から約三〇分、面積六十二・七kmの伊仙町には誇れるものが数多くあります。

そのひとつが、国指定史跡『徳之島カムイヤキ陶器窯跡』で、二〇〇七（平成十九）年に九州で二十四番目に国指定された史跡であります。

カムイヤキは、今から二十四年前の一九八三年に発見され、その後の調査により、国有林野内に一〇〇基を超える窯跡があるものと予想されます。

この『カムイヤキ』は、今から約一〇〇〇年前の平安後期から鎌倉期に焼かれた焼き物で、当時の流通範囲は、北は鹿児島県・金峰町から、南は沖縄県の八重山諸島の波照間島までの南北約一〇〇〇kmにも及んでいます。

琉球列島に於いて、穴窯を掘り抜いて焼き物を焼く技術はこの時代においては画期的で有り、かつ、硬く引き締まった器は、大変な人気がありました。

その後、韓国から釉薬（器の表面に塗る薬）を使った焼き物が入ってきたために、売れなくなり焼くのを止めました。しかし、この焼き物は、中世に忽然と登場して、忽然と消えたのです。はたして、誰が何の目的で作らせたのか？また売りさばくために積み出した港は何処か？ 等々の・・・？ 謎だらけの焼き物です。

『カムイヤキ』は、平成十三年の文化庁主催の第七回『発掘された日本列島展』にも出品され、全国五箇所の会場を巡ってきました。

また、シンポジウムは、平成十四年に一回目、平成十九年に二回目を開催しました。

今も歴史と文化が色濃く残っている伊仙町は、太古の昔より住みやすい所であったと推測され、カムイヤキの森の中で、当時の歴史文化に浸って見ては如何ですか。



出土された製品（甕・壺・碗・鉢）



国有林内の窯あとと支群（約 100 基ほど）



東柳田支群 第 I 地区 5 号窯

「新春の彩り、一村の四季展」

■展示期間：平成19年12月20日（木）～平成20年3月18日（火）

田中一村は50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたなら絵を描くという生活を繰り返し、名瀬市有屋の借家で、誰にも看取られず69歳の生涯を終えた。今回、冬から春を迎える季節感のある作品を集めてみました。

常設展示室1

幼年期～青年期 明治41年(1908)～昭和13年(1938)

◆大人顔負けの天才的な画才を現した12歳から19歳にかけての色紙。

画題	種類	制作年代
白梅	(色紙)	大正6年(1917年 9歳)
天下第一春	(色紙)	大正10年(1921年 13歳)
平安長春	(色紙)	大正11年(1922年 14歳)
梅花図	(色紙)	昭和2年(1927年 19歳)

◆米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。

画題	種類	制作年代
自適溪谷	(軸装)	昭和初年(1926年 18歳)
桐の花とオナガ	(軸装)	昭和20年代中期
梨花に高麗鶯	(軸装)	昭和20年代中期

常設展示室2

◆百姓と見まごうばかりの千葉寺の生活、身近な自然を描いた作品。

画題	種類	制作年代
カケス	(額装)	昭和30年頃(1955年 47歳頃)
千葉寺・雪の日	(額装)	昭和20年代
千葉寺・浅春譜	(額装)	昭和20年代

九州・四国の旅 昭和30年(1955)

◆旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。

画題	種類	制作年代
ハマユウとヒギリ	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)
高千穂②	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)
平和な朝	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)
室戸岬	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)

常設展示室3

◆奄美で描かれた花鳥画。千葉時代の作品を彷彿させられる。

画題	種類	制作年代
紅梅丹頂図	(額装)	昭和35年頃(52歳)

◆奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。

画題	種類	制作年代
奄美の杜①ソテツとアダン	(額装)	昭和36年(1961年 53歳)
パパイヤ	(額装)	昭和35年(1960年 52歳)
ユリと岩上のアカヒゲ	(額装)	昭和30年代
奄美の杜③ビロウとハマユウ	(額装)	昭和40年代
奄美の杜④草花と蝶	(額装)	昭和40年代
奄美の杜⑦ビロウ樹	(額装)	昭和40年代

◆個人からの依頼で、約20点ほどの南画作品の模写を行っている。作品には倣うという意味で「倣…」と入れてあるが、確かな技量が感じ取れる作品。

画題	種類	制作年代
倣蕪村①	(軸装)	昭和22年以降(1947年 39歳以降)
倣木米③	(軸装)	昭和22年頃(1947年 39歳頃)

◆一村から軍鶏師に描かせて欲しいと頼んで描かせてもらったとされている。精魂込めて完璧に描いた襖絵。

画題	種類	制作年代
花と軍鶏	(襖絵)	昭和28年(1953年 45歳)

千葉寺時代 昭和13年(1938)～昭和33年(1958)

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画題	種類	制作年代
牛車と農民	(色紙)	昭和20年頃(1945年 37歳頃)
シヤモ	(色紙)	昭和20年頃(1945年 37歳頃)
山の田	(色紙)	昭和21年頃(1946年 38歳頃)
水仙	(色紙)	昭和20年代

奄美の一村 昭和33年(1958)～昭和52年(1977)

◆「奄美時代」の色紙。

画題	種類	制作年代
宝島	(色紙)	昭和30年代
奄美客舎	(色紙)	昭和30年代
漁樵対問②	(色紙)	昭和35年頃(1960年頃 52歳頃)
花と蛾	(色紙)	昭和50年(1975年 67歳)
岩上のアカヒゲ	(額装)	昭和34年(1959年 51歳)

◆緻密な写生を繰り返した「素描」。

素描・魚④	素描・エビ①	素描・鳥⑧
素描・鳥⑨		

◆奄美の人々とつきあっていくなかで依頼された「肖像画」。写真を基に緻密に描かれている。現在も多くの肖像画が残っている。

画題	種類	制作年代
復刻肖像画	(額装)	昭和38年(1963年 55歳)

◆一村を語るうえで欠かせない重要な作品。個人所有のため、複製を展示。

画題	種類	制作年代
ダチュラとアカショウビン	(額装)	昭和42年頃(59歳頃)：複製
アダンの木	(額装)	昭和47・8年(64・5歳)：複製

◆「アダンの木」と共に閻魔大王へのお土産と称した作品、昨年宮崎鐵太郎氏より寄託された。

画題	種類	制作年代
奄美の杜⑥クワズイモとソテツ	(額装)	昭和47・8年(64・5歳)：複製

～お知らせ～

「一村の杜」が完成しました。

平成 19 年 7 月 29 日（日）に「一村の杜完成セレモニー」を行いました。

「一村の杜」は、画家・田中一村の作品と同じ構図で実物の植物を鑑賞できるスポットを 6 カ所設けております。ご来園の際には是非足をお運びください。

奄美の郷・田中一村記念美術館イベント案内 (平成20年2月～20年3月)

1 奄美の郷イベント広場

●奄美パーク春まつり

シマジマだより・・・2月17日（日）

サンガツサンチ・・・3月2日（日）

●奄美の郷ライブステージ・・・3月16日（日）

2 田中一村記念美術館企画展示室

●「ぬさりぐと（豊穡）」鈴木るり子洋画展・・・2月3日（日）～2月17日（日）

●美術講演・・・2月17日（日）（奄美文化センター）

●創作体験教室（人物画）・・・2月23日（土）・24日（日）

●海江田宏・吉村真也 洋画2人展・・・3月2日（日）～3月16日（日）

●大炊御門エデン「奄美 神々の大天底展」3月23日（日）～4月7日（月）

●お問い合わせ

鹿児島県 奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

■奄美パークホームページ <http://www.amamipark.com/>

■奄美の郷／TEL.0997-55-2333 FAX.0997-55-2612

■田中一村記念美術館／TEL.0997-55-2635 FAX.0997-55-2613

■開園時間／9:00～18:00（7・8月は9:00～19:00）

入館は、閉園時間の30分前までです。

■休園日／毎月第1及び第3の水曜日（祝日の場合は翌日）

〈4月29日～5月5日、7月21日～8月31日、年末年始は開園〉

■施設観覧料／奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料

大人…400円、高校・大学生…280円、

小・中学生…200円、幼児（小学生未満）…無料

奄美パーク周辺マップ

